

## 川崎市長賞

百年後の川崎へ

旭町小学校 6年生 平沢 陽茉莉

「また給食の牛乳をこぼした！」

5年生になってから給食の牛乳のストローが配布されなくなってしまったため、給食の時間が一気にゆううつになってしまった。高学年になったのに毎日牛乳をこぼし続けているのは恥ずかしい。ある日は、牛乳パックの開け方を変えて飲んでみた。ある日は、口の形を工夫してみた。色々な方法を試してみたけれど、毎日毎日こぼしまくった。それも1ヶ月程経つと、ストローなしの飲み方にも慣れ、段々とこぼす回数も減り、最終的にはこぼさなくなったのだ。そして、1年経った今、給食の時間に新1年生の準備や片付けの手伝いに行くことがある。低学年はこぼす人が多いため、ストローを使う場合があるが、給食に慣れない1年生がストローを使って飲んでいる様子を見て、今では逆におどろくまでになった。

そもそも、学校給食のストロー配布を取りやめたのは、環境問題の一つ、プラスチックごみ削減を目指してのことだ。ストローを配布しなかった結果、川崎市内だけで、年間約二千万本のストロー削減となり、これは年間約6トンのプラスチックごみ削減となる。小学生の私の毎日の行動が、とても大きなごみ削減へとつながっていることを知り、おどろいた。牛乳パックに直接口をつけて飲むようになった時には、その環境の変化になじめず、なげいてばかりいたが、一人の小さな行動でも世の中を大きく変化させられることを知ってうれしく思った。

牛乳パックのストローの取り組みは川崎市内の小学生のアイデアがきっかけになったそうだ。同じ小学生のアイデアがもとになって大人たちを動かすことができることに興奮した。私のごみ削減のためのアイデアも聞いてほしい！

運動会のプログラムは、今は、印刷して配られているが、ウェブ上で見るようにするのはどうだろうか。誰でも見られるようにするのではなく、QRコードを配られた限られた人だけが見られるようにすればいい。その他の手紙も同じように紙で配布するのをやめたら、年間でどれだけの紙削減になるだろう。LINEアプリのように既読、未読を確認できる機能をつけて管理したらいいし、子供が家に持って帰る間になくすこともなくなり、ちゃんとお家の人に手紙が行き届くようになる。紙ごみを出さなくて済む、印刷の手間が省ける、セキュリティも万全、確実に手紙を届けられる。一石四鳥、一挙四得、一兎で四兎を追うのだ。

ごみを減らす取り組みは3Rと学校で学んだ。リデュース、リユース、リサイクル。個人で取り組むと大きな成果は感じにくい分、地味に感じるけれど、これもやはり継続が大切だ。最近、私は3Rを意識して生活をしている。リデュースでは、おつかいを頼まれたときにマイバックを持参することが習慣になった。お店の人に「袋はいりません」と言うのは少し勇気がいるけれど、最近は袋はいりませんと書

いてあるカードが用意されている店もある。私のように引っこみ思案な人でもリデュースに参加しやすい世の中になっている。マイバックを忘れてしまった時には、「あ〜、忘れてきちゃった。」と残念に思うくらい習慣化してきている。リユースでは、サイズアウトしてしまった服を妹にお下がりしている。私がずっと着ていたいお気に入りの服を妹にゆずるのは本当はいやだ。妹は妹で私がお下がりするのをしぶるからもっと欲しがらる。お母さんはニンマリしている。古本屋さんで本を買うこともある。新品で買うよりも安く手に入るし、おねだりにはもってこいだ。リサイクルでは、分別に心がけている。どれも小さな毎日の積み重ねだ。

今年、川崎市制 100 周年の年だ。川崎ができた頃の人から見たら、たくさんの変化がこの 100 年であったはずだ。そこには、その変化を良しとっていない人たちもたくさんいたはずだ。しかし、今の川崎市の様子を見たら人口が増えて賑わった街になり、工業も発展し、「すてきな街だね」と思ってもらえると思う。誰かにとっては我慢を感じるような変化があるかもしれない。しかし、その変化があつてこそこの今があるのだ。だから、変化をこわがらず、楽しむことが大切だと思う。今はごみ削減を目指して川崎市全体が一丸となり問題解決にはげんでいる。ここからの新しい 100 年で「良い変化だった」と言えるように、未来に向けて行動していこう。それがたとえ一人にとっては小さな行動であっても。